

総合教育会議記録

1. 日 時 令和3年1月27日（水） 午後4時00分 開会
午後5時00分 閉会

2. 場 所 条里南庁舎 会議室

3. 出席者 横手市長 高橋 大
横手市教育委員会
教育長 伊藤 孝俊
教育委員 加賀谷 長吉
教育委員 二階堂 衛
教育委員 佐々木 雅子
教育委員 今仲 和代

4. 説明のため出席したもの（11名）

総務企画部次長兼総務課長	佐藤 信
教育総務部長	木村 雅美
教育指導部長	菅 雅彦
教育総務部次長兼教育総務課長	菊地 浩昭
生涯学習課長	横井 朗
スポーツ振興課長	加藤 貞純
文化財保護課長	佐藤 孝之
図書館課長	佐藤 輝明
教育指導課長	岩野 玲子
学校教育課長	遠藤 美紀子
学校給食課長	岩瀬 司

5. 事務局 総務課課長代理 嶋田 貴
教育総務課副主幹 田中 弓子
教育総務課主査 最上 拓弥

6. 会議に付した事件

- (1) 横手市の教育に関する大綱について
- (2) 令和3年度教育行政方針（案）について

7. 会議の経過と結果

開 会 午後4時00分

●木村教育総務部長

それでは、ただ今から令和2年度第1回横手市総合教育会議を開催する。この総合教育会議は、平成27年の地方教育行政法の改正に伴い、設置が規定されたもので、市長と教育委員会により構成されるものとなっている。例年、この会議において、次年度の教育行政方針について意見をまとめており、今回は他に令和3年度からの教育の目標や施策の方針をまとめた教育大綱についても協議する。開会にあたり、市長と教育長からご挨拶をいただく。

●高橋市長

伊藤教育長はじめ、教育委員、教育委員会事務局の職員におかれては、特色ある横手の教育行政の推進にご尽力賜り、この場をお借りして深く感謝申し上げます。また、学校教育の変化において、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、様々な対応を適正に行っていたいただいた。混乱が付き物の昨今だが、混乱を乗り越えて教育行政を進めていただいていることにご慰労を申し上げますと共に、今後も大雪による天変地異や新型コロナウイルス感染症の様々な混乱等、今年もご難儀をお掛けする1年になると思っております、引き続きのご尽力を期待する。

新型コロナウイルス感染症の影響により、会議等の書面議決や、行事、イベントの中止または延期、縮小というような形で行われ、私自身、今まで数分の余裕もなく働いてきた訳だが、このコロナに伴い時間に余裕が出来た部分もある。ニュース以外のテレビ番組を見ることがない生活をしてきたが、世間一般の方々がご覧になる情報もテレビを通して拝見する時間をいただいた。ワイドショーと呼ばれるような、お笑い芸人や様々な業界の方が持論を展開し、それがあたかも常識、正しい意見かのように放送しており、これを皆が見ているのかというショックを受けた。やはり一人ひとりが発生した事案に対して、自分なりの勉強をしっかりとしていれば、情報の選別という眼力が身に付くのだろうが、基礎的な学問を身に付けていなければ、ショー的な番組を鵜呑みにしてしまい、翻弄されパニックになる。私はパンデミックよりインフォデミックの影響が大きいと感じているが、情報氾濫の世の中において、情報を選別できる眼力を身に付けることにより適正な行動を取っていけるのだと考えており、そういった意味で教育というものは非常に大事であると捉えている。また、情報機器、スマートフォン等の便利なものがあるが、それもまさに玉石混交の情報がその中に入っており、選球眼が身に付いていなければ、ただ便利なだけではなく悪い影響にもなる。これらの機器をうまく活用するには、分別ある考えの基礎となる学習を身に付けていかないと、間違った方向に行くと感じているところ。こうした変化の世の中であるので、しっかり市民が勉強して、一人ひとりの資質というものを向上させていくことが、横手の発展に繋がるものと思う。以上のことから教育行政は大変大事であると捉えているので、委員会のご意見を頂戴しながら大綱に反映させていきたい。

●伊藤教育長

市長をお迎えして総合教育会議が開催されることを大変意義深く考えている。新しい学習指導要領が小中ともに施行されて間もないこの時期に横手市教育ビジョン第3期の策定が行われているところ。

令和3年度は横手市にとって、学習指導要領の改訂はもちろんのこと、十数年来の

統合計画の最終年度となり、新しい十文字小学校の開校がある。また、令和3年度はICT教育の元年に位置付けられ、新しいところでは、コミュニティスクールの施行も始まる。市の総合計画においても後期計画が策定され、それを基に教育ビジョンも策定されるといった何もかもが新しい時代に向けて、さらに一步踏み込んだ質の高い教育行政を目指してスタートする令和3年度と捉えたい。今日の総合教育会議を通して、これからの教育の在り方について、皆さんでご協議いただき、目標を定めながら着実に一步一步、進めて参りたい。

なお、横手市の場合は、市長のご意向もあり、教育長という立場ではあるが、市の行政の大多数の場面で四役の一人として参加させていただいている。総合教育会議という名前の会議の場は少ない訳だが、市の教育行政については、市長との情報交換を密にしながら、皆さんの思いや課題も伝え、指示を仰ぎながら、日々進めているというのが実情である。そのスタイルは今後もしっかりと継承しながら進めて参りたいと考えているのでよろしく願います。

(1) 横手市の教育に関する大綱について

●菊地教育総務部次長兼教育総務課長

【議題(1) 資料を基に説明】

現在、横手市の教育大綱及び教育振興基本計画として位置付けている、「第2期横手市教育ビジョン」が令和2年度末で終期を迎えることから、令和3年度からの横手市教育大綱を定める必要がある。これは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育大綱を定めることが必須となっている。教育委員会としては、「第2期横手市教育ビジョン」と同様に、令和3年度から令和7年度までを計画期間とする「第3期横手市教育ビジョン」を、横手市の教育大綱及び教育振興基本計画として位置付けたいと考えている。教育目標、政策、施策、施策の展開をまとめた資料の骨子となる部分は、横手市の最上位計画である総合計画と整合性を図っており、目指す方向は同じ。このあと、議会への説明、パブリックコメントを予定しているが、骨子については、変わることがないものと捉えている。令和3年度からの教育大綱については、この第3期横手市教育ビジョンをもって、それに代えたいと考えており、ご協議をよろしく願います。

●木村教育総務部長

この第3期横手市教育ビジョンをもって、教育大綱に代えたいということで、皆様のご協議をお願いします。

●佐々木教育委員

第2期教育ビジョンと比べるとさらに文言がわかりやすくなり、第2章の本市の教育を取り巻く環境の地域社会の状況の中にある、親子の育ちを応援するという言葉に注目し、目に見える応援、また目に見えない関わりがこの言葉に詰まっているようで、大事なものを見つけたと思った。市町村合併から今に至るまで、小中学生の数が2700人減少し、これから大変だというのが現実味を帯びている。地域や学校毎に拘らず、大事なことはもう少し垣根を超えて、質を高めていくことを考えてなければならぬだろうと感じた。

●今仲教育委員

「社会全体で子どもを支えよう」や、「親子の育ちを応援するとともに」といった言葉は、子育て世代の私たちに心強いと感じた。そして、地域や世代を超えた繋がりを増やしていければいいと思う。

●加賀谷教育委員

人口の分母そのものが小さくなっているということを説明していただき、改めて人口減少が進むスピード、また、この成果目標、指数には様々な努力があったものと実感した。

●二階堂教育委員

この素案は全体的に大変よくできたものだと感じた。その中で施策5のよこての伝統文化の継承と再発見のところで、「地域の伝統的な行事や民族芸能が失われつつある」と記載されているが、どうしても避けることが出来ない人口減少という問題があり、担い手を確保していくことを考えれば、現状の教育を続けていく、より強化していく、ということは当然のこと。絶対数が少なくなっていくこの現状を見れば、伝統文化というものを拡大解釈し地域を拡大していく、お互いが協力し合える考えを持った体制づくりというのもこれから必要になってくる。今現在でも伝統芸能行事や、他の地域からの参加者を認め、伝統的文化を継承しているという動きは少なからずある。この大綱の中では具体的に謳われてはいないが、これからはそういうことも踏まえ、考えを共有していかなければいけないのではないかと思う。

もう一つは、第1章の計画の作成にあたっての中に記載されている「人生100年時代」や「超スマート社会」という言葉がある。この時代の到来をどのように捉えて教育に反映していくかということを見ると、やはりこれからは人とAI、便利な社会であることはもちろんだが、先ほどの市長、教育長のお話の中にもあったとおり、情報社会の中において、いかに取捨選択し、その情報をどのように考え、考察し、正しい考えを持って行くか、教育の手助けというものもこれからは重要なことだと考えている。

●岩野教育指導課長

まさしく教育の大転換の時期に差し掛かり、一人1台の端末も整備していただくということで、新しい教育に向けて全職員も一丸となって向かっていきたい。そのためにも子ども達にどのような力を付けたいのかというはっきりとしたビジョンを示しながら全体に広げていくこと、それから実効性ある授業改善を図りながら、子ども達にとっても、また、ご家庭の皆様にとっても横手の教育、学校で行っている実効性ある取組みが伝わっていくようにこれからも計画をしっかりと立てて進めて参りたい。

●伊藤教育長

この教育ビジョンは、これから5年間の横手市の教育の方向性を示す、ある意味、教育基本法によるところの横手市の教育振興基本計画と呼べるもの。この基本計画である教育ビジョンに基づいた、具体的なアクションプランを毎年の教育行政方針に定め、実行していくことによって、この教育ビジョンの目標達成を可能にしていくものと思う。この振興計画に位置付けられる教育ビジョンを横手市の教育大綱という形として認めていただき、毎年の具体的な施策を教育行政方針に基づき重ねていくという

スタイルをご提案したい。市長のご快諾があればそのような形で進められるのではないかと思います。

●高橋市長

委員の皆様からも良い評価をいただき、しっかり意識を働かせながら実行に移していくというように捉えたところ。人生100年時代という話もあったが、15年後には横手市の人口の約半分くらいは65歳以上の方が占め、サラリーマンとしての労働で言えば、皆ご退職され、人生100年とすれば残り35年となる。少数の現役世代が支えていくことは現実的なのかと考えると、やはり、65歳以上の方々も地域を支える戦力として意識していかなければならない。現役世代よりは体に無理は利かないかもしれないが、新しい時代に合ったスキルを身につけていただき、存在意義、あてにされる65歳以上になっていただかないと、人口減少、少子化という課題は乗り越えることができない。そういう意味では文化的な生涯学習やビジネスとしてのスキルというのも大事になると考えており、生涯現役として地域が少人数になっても機能する困らない横手市を学習によって作っていかねばと感じているところ。

また、地域の範囲を広げ、文化の継承をしっかりしていく、まさに、人口減少で発生した課題を乗り越える知恵と受け止めており、排他的にならず、他の地域の方、周辺地域の方にも受け入れられる形でなんとか大事な伝統芸能を守っていただきたい。今のコロナ禍においても、横手で散見される厄疫退散としての行事は何百年も残っており、人の悩み、恐れ、混乱する事案は昔も今も何ら変化ないというようにも感じたところ。まさに伝統は新しかった、伝統は流行の先を行っていたということだと思う。文化や伝統の本来の価値、どうして残っているのかというのは必ず意味があり、本来の伝統行事の意義、価値を学び直すことにより、流行に持っていけるものと思っている。もしかしたら流行こそ遅く伝統の方が速い、昔の人類の教訓が残っているのだと思うので、そういった宝が横手にはあるということを大事にして参りたい。

そして新しい技術、これからタブレット端末も児童、生徒達に提供される訳だが、冒頭申し上げたとおり、情報氾濫、情報精査という玉石混交、玉と石をちゃんと見分ける眼力、基礎知識をベースに持つておかないと惑わされるものと思っている。便利さと引き換えに情報というのは諸刃の剣の部分もあり、その情報により自ら命を絶ってしまう人もいる。ある雑誌にスウェーデンの学者が提唱し、本にもなっている記事が載っていたが、スマートフォンを持っていると見違えるほど馬鹿になるという内容で、小中高生の親御さんにも見ていただきたいような本であった。やはりスマートフォンをテーブルの上に置いているだけでも集中力が切れてしまう、本来身に付けるべき学習が疎かになるのも確率的にあるのではないか。その文明の利器のうまい使い方をしっかり考えていかなければと感じている。新しい時代は避けて通れず、時代に合った内容に実働部隊を仕上げなければならない。

●木村教育総務部長

第3次横手市教育ビジョンを横手市教育大綱として位置づけることでご異議ないか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

第3期横手市教育ビジョンをもって教育大綱に代えることとする。

(2) 令和3年度教育行政方針(案)について

●菊地教育総務部次長兼教育総務課長

【議題(2)資料を基に説明】

ただいま認めていただいた教育ビジョンを基に、その年の施策について計画を立て、ビジョンに沿った事業を展開していくにあたり、毎年、教育行政方針において、主な実施事業をまとめている。この教育行政方針は、このあと市の政策会議を経て、横手市議会3月定例会において説明するもの。

●木村教育総務部長

令和3年度は、この方針で進めたいと考えているがいかがか。ご協議をお願いしたい。

●佐々木教育委員

令和3年度の教育行政方針なので、十文字小学校の完成の遅れについては記載がないのではと思うがいかがか。

●菊地教育総務部次長兼教育総務課長

十文字小学校の建設については、今季の大雪の影響により工事に遅れが生じているところ。確かに工事は令和2年度のものだが、統合により新年度からスタートする小学校の開校を確実なものにしたいという思いから記載させていただいた。

●二階堂教育委員

大変よくできたものだと思う。今のコロナ禍において、文章にしたものがどれだけ実現できるのかという心配がある。コロナ禍にあつてというような表現を加えたほうがいいのではないか。

●木村教育総務部長

実際、オリンピックの聖火リレー等について予算措置させていただいているところではあるが、コロナ禍において明確になっていない、明記できないような事業もある。教育委員会としては、例年どおりコロナ対策を行いながら進めさせていただきたいと考えている。

●二階堂教育委員

であれば冒頭の部分にでも何かしらの文言があってもいいのではと考えるが、いかがか。

●木村教育総務部長

検討させていただく。

●今仲教育委員

学校給食の部分で郷土食や減塩献立等の食に関する指導は、子どもたちも食に関する興味や関心を持つきっかけになっており、保護者にとってありがたいことだと思う。

●加賀谷教育委員

教育指導の充実の中にある「言葉の力」に代表されるように、市長も色々な情報の取捨選択という言葉で表していたが、この言葉や指導方法が説明の中で全面に出されていたものと思う。

●伊藤教育長

コロナ禍においてという部分については検討していただければと思う。コロナであってもコロナでなくても粛々と進めていかなければならない施策や事業もあり、実施には鋭意努力が重要だろうと思う。最初からできないことを書いてはいけませんが、ここに掲げた以上はしっかりと実践に結び付けていくという覚悟のうえで、ご意見を参考にしながら各課で読み直し、修正を加えて提出していただければと思う。

●木村教育総務部長

他にご意見がないようなので、これで令和2年度第1回横手市総合教育会議を閉会する。

閉 会 午後5時00分